写メして人間ドック

健診ATMの開発背景

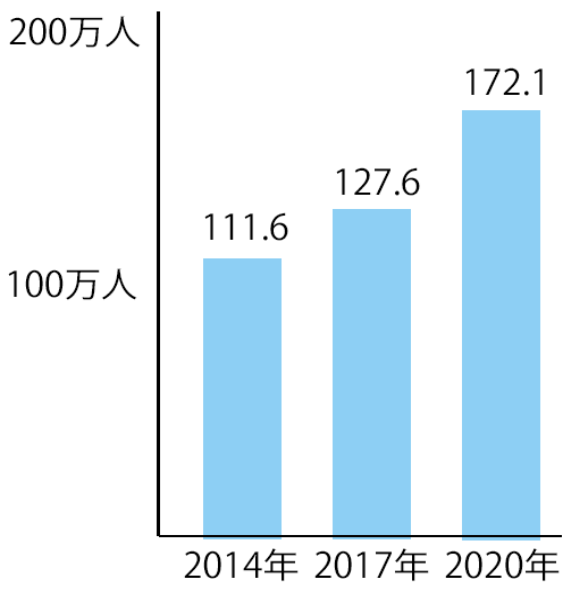
2024.02.19

ディメンシア・フロント株式会社

Dementia Front

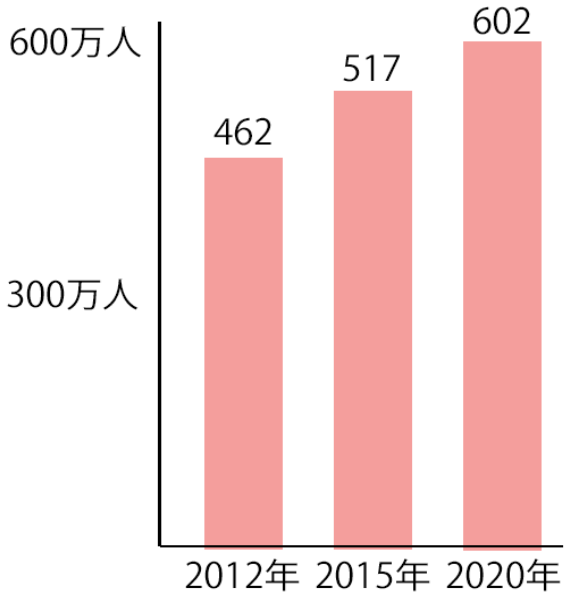
うつ病は200万人、認知症は600万人の時代へ

うつ（躁うつ病を含む）病患者数の推移



厚生労働省「患者調査」より

認知症患者数の推移

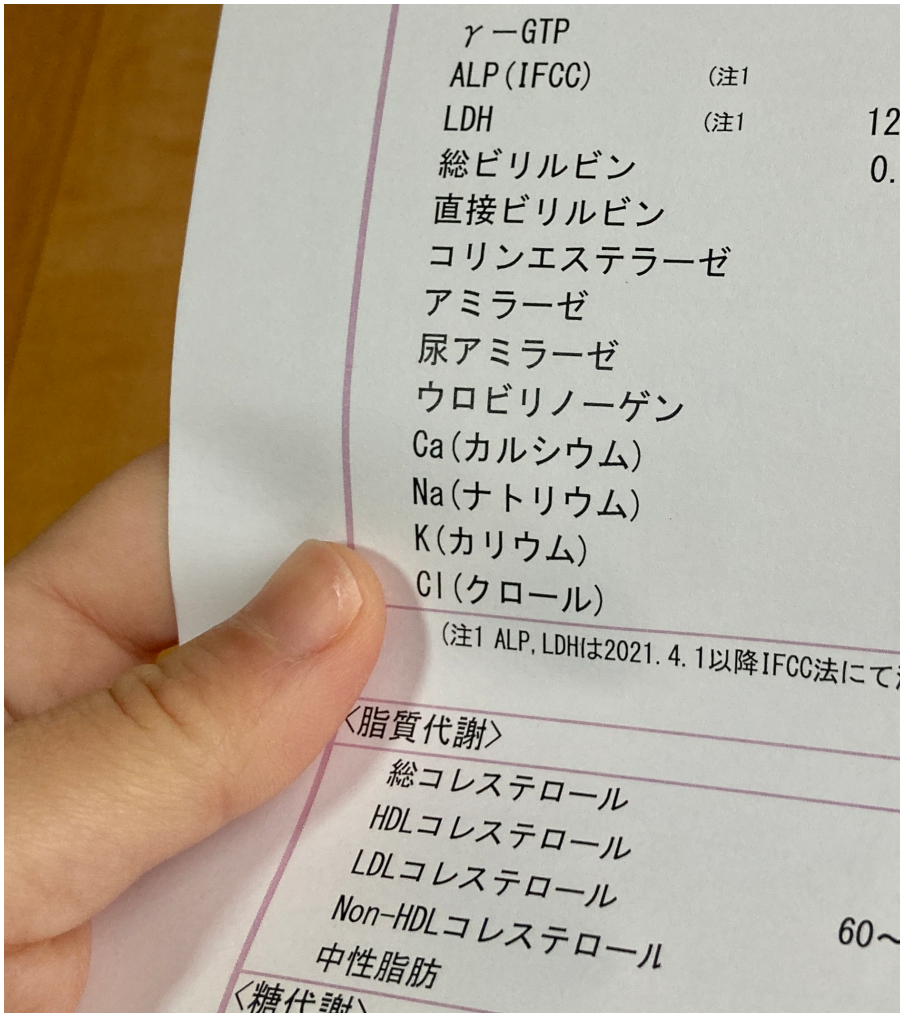


内閣府「平成29年度版高齢社会白書」より

うつ病（躁うつ病を含む）の患者数は増え続けている。

現役世代の罹患が多く、継続的な就労の障害となっている。

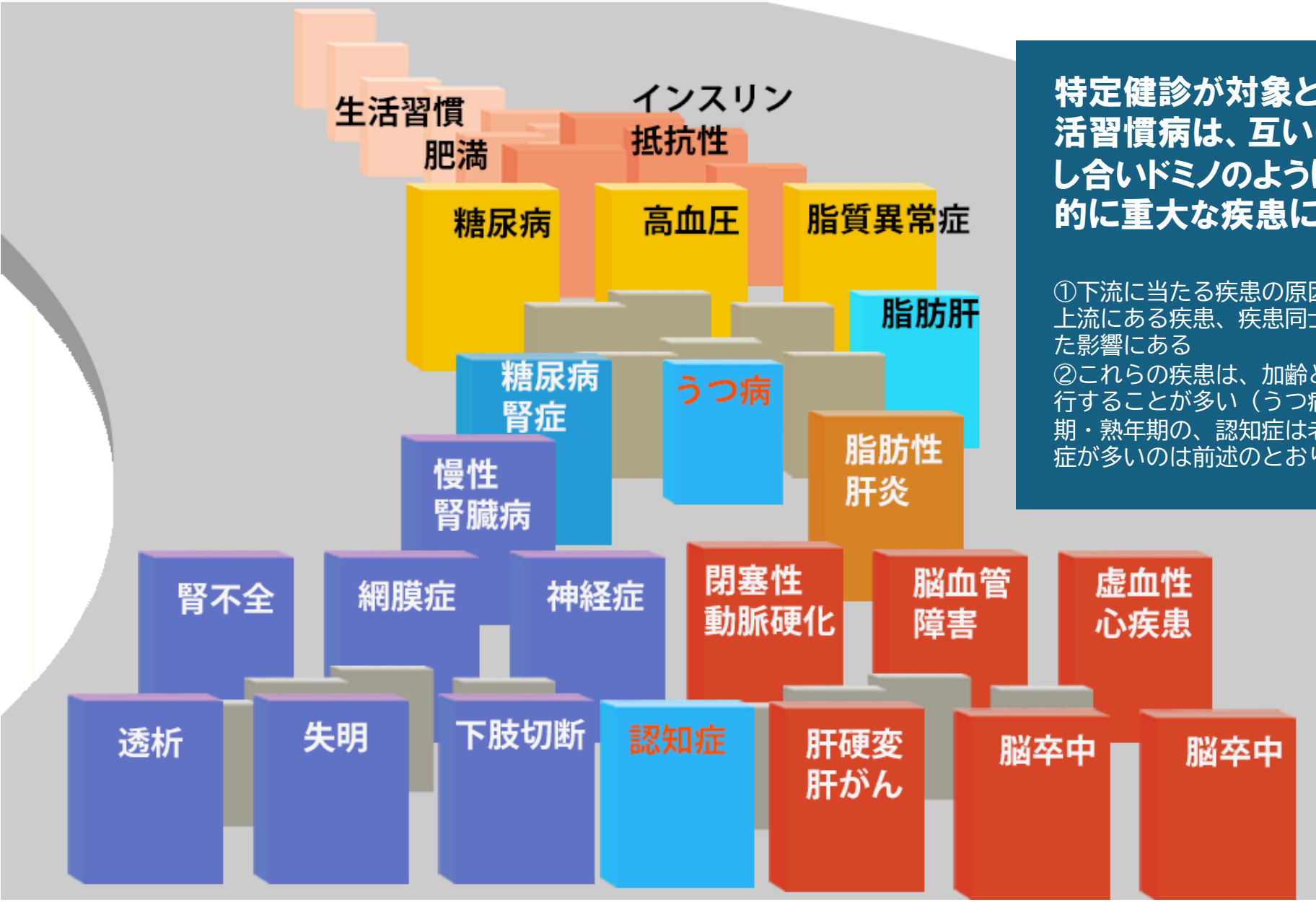
特定健診を予防に役立てる



特定健診は、40歳以上の国民が無料で受けられる疾患予防のまたとない機会だが、うつ病/認知症への貢献は小さい。

【解決可能な項目】
① 受診・検査に伴う時間とお金
② 検査を、リスクだけでなく原因も示す検査に
③ 発症前スクリーニングとプレクリニカル対応
④ うつ病/認知症の根本的な予防/回復

特許申請技術の理論的背景



特定健診が対象とする生活習慣病は、互いに影響し合いドミノのように連鎖的に重大な疾患に連なる。

①下流に当たる疾患の原因は、その上流にある疾患、疾患同士の複合した影響にある
②これらの疾患は、加齢とともに進行することが多い（うつ病は青年期・熟年期の、認知症は老年期の発症が多いのは前述のとおりである）

技術の総括

本件技術は、健康診断データ（血圧・血液データ）から臨床上用いられている方法により、

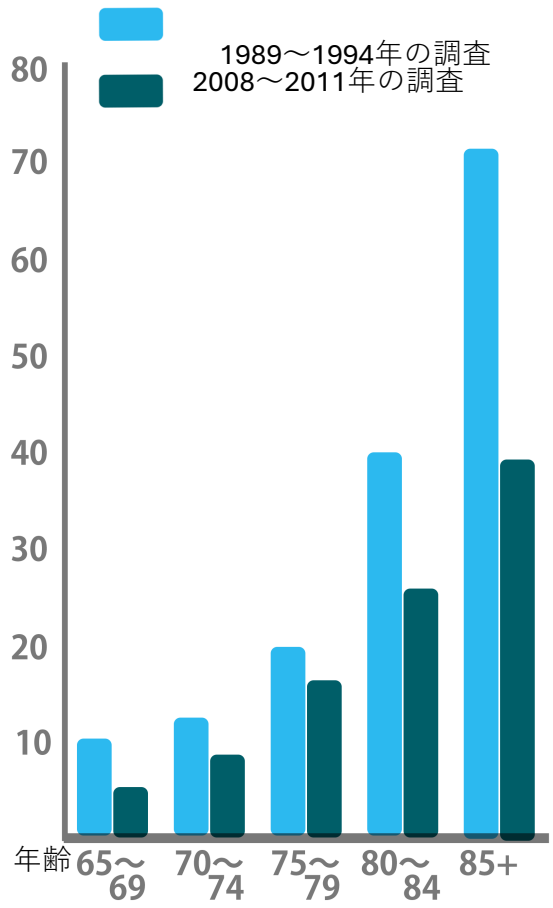
動脈硬化・脂肪肝・慢性腎臓病リスクを明らかにして、健診データのブラックボックスとなっている脳の状態（うつ病・認知症のリスク）を明らかにする技術である。

予防と回復に向けて。

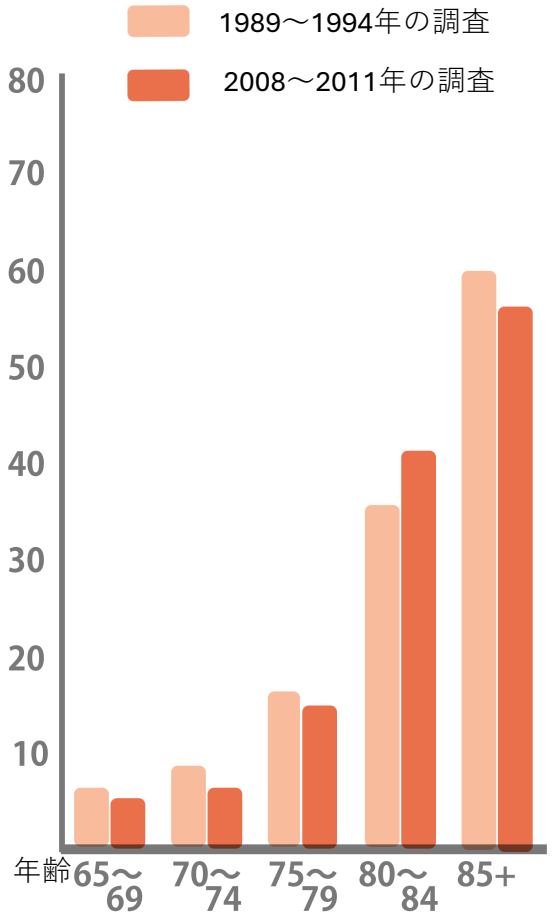
生命活動は、すべて栄養に由来する。それゆえ、『腸の健康状態』は重要な視点である。いろいろな検査が想定されるが、健診ATMでは、正常、便秘、下痢、便秘と下痢の混合の４つの問診で行う。

生活習慣病への介入で認知症発症率を抑制した実績（英国）

男性の発症率（1000人/年あたり）



女性の発症率（1000人/年あたり）



英国では、心血管疾患や腎疾患を抑制する目的で行った生活習慣病への介入で、心血管疾患・腎疾患の発症を40%程度抑制した。

その際に、認知症も20%程度抑制されていたことが分かった。この実績も、第一段階判定の合理性を裏付ける。

健診ATM

減らす

負担になる受診や検査

取り除く

・突然死要因
・うつ病要因
・認知症要因

健診ATM

加える

リスク・原因の見える化
包括的治療法

・NMN（細胞活性）
・水素療法（酸化抑止）

増やす

回復事例
・生活継続
・周辺症状の改善